

の取沙汰なりき、余是を聞て考ふるに、南半田村の大骨といひ、其外にも村里の氏神などに祭れりといふ神體、格別に大なる骨などあり、又古塚などを開きたるに、大なる頭骨を掘せしこと、奥州邊にては多く聞り、西國北國邊にてはかゝることを聞し事なし、奥州にてかゝる骨を、賴朝の頭、又は田原の又太郎が頭など、其外往古の鬼神の骨なりといひはやせど、つらく思ひ見るに、全くさせることにあらずむかしの人とても、今の人にかはることなければ、名高き人にて、さほど大なることはたえて無き理なり、余萬國圖を考へ見るに、日本の東の方數千萬里の外に、巴大温（たぬ）といふ國あり、俗にいふ大人國にて、其國の人は長ク數丈に及び、過し年、阿蘭陀人諸國をめぐるしついで、彼國に至り、氷を取らんが爲に、陸にあがり見るに、沙原に足跡あり、其跡數尺にして、人間の如くあざりしかば、恐れて逃歸れりといふ事もあり、又其國に漂流せし人、つひに歸りしことなしとも見えたれば、必日本の東方に當りて、大人國ありて、其國の人は身のたけ二三丈にも及びたること、聞ゆ、殊に奥州邊ばかり大骨打あげて、西國北國に其事なれば、必定彼巴大温の國の人、漁人などの船の覆りて、海中に死せし骨の、昔も大風雨に、日本の東海邊に寄來りしを取上て、あやしみ恐れて、神にも祭り塚にも納めしと覺ゆ、今度の南部領の大なる足も、彼國の人の漂流せしが、大波浪に足のみ打切られて、大風雨に日本の海まで流れ來りしなるべし、北方には小人國ありて身の長ク三尺計といふ、さすれば南方に大人國無しともいふべからず、只格別に大にして人情も世界とは相違せるゆゑ、いまだ其國の通路ひらけず、其子細明らかに知れざるなるべし、近き年は段々に阿蘭陀萬國を乗り廻りて、諸蠻夷の國々に通路ひらけたれば、つひには大人國も知らるべきにや、

一丈以上

〔古事記中〕故大帶日子游斯呂和氣命○景者治天下也御身長一丈二寸、御

〔古事記傳二十四〕一丈二寸は比登都惠麻理布多伎と訓べし、丈と云は、もと杖を以て、物の長さ